

2024年度を振り返って

一般社団法人ひびき青年会議所
第53代理事長 盛田 総平

2024年度、私のスローガン「Unite, Lead and Change～団結力～」というテーマのもと、団結力を重視した活動を展開しました。このスローガンには、メンバー同士の結束を高め、地域社会に対してリーダーシップを発揮し、必要な変化を生み出すという思いが込められています。

年間を通して、私たちは12回の例会、総会を開催し、メンバー間の交流や意見交換を活発に行いました。これにより、各メンバーが地域貢献に対する意識を高め、共通の目標に向かって団結することができ、また例会では地域の課題についても議論し、今後の活動に活かすための具体的なアイデアを出し合いました。

青少年事業として実施した、ひびきっず！～「人間力」強化合宿～では、地域の子供たち30名を対象に、自然の中での体験を通じて協力やチームワークの大切さを学ぶ機会を提供しました。キャンプ中は、様々なアクティビティを通じて子供たちが自ら考え行動する力を養うことを目指し人間力強化にもつながり、参加した子供たちからは、楽しかったという声が多く寄せられ、彼らの成長を感じることができました。

また、地域開発事業として実施した「ひびきおしごとクエスト」は、子供たちがさまざまな職業を体験する機会を提供するもので、キッズニアのような趣旨の事業です。このイベントでは、地域の企業や団体と連携し、実際の仕事の内容を体験することで、将来の職業選択に対する興味や理解を深めることができました。参加者からは、普段触れることのない職業について学べたという感想が多く寄せられ、地域の企業との連携の重要性を再認識しました。これらの活動を通じて、私たちは地域に密着した団体としての使命を果たすことができ、メンバー同士の結束を高め、地域の未来を担う子供たちに対しても支援を行うことができたことは、大きな成果とも言えるでしょう。

最後に、私たちの活動は一人ひとりの思いや行動によって支えられています。今後も「Unite, Lead and Change～団結力～」の精神を忘れず、さらなる地域貢献に向けて努力していく所存です。2024年度の活動を通じて得た経験をもとに、引き続き団結力を高め、地域の発展に寄与していきたいと思えます。

総務委員会

～基本方針～

JCIひびきは、創立より半世紀を超える月日の中で、長きにわたり先輩方が築いてきた歴史や伝統、またいつの時代においてもメンバー一人ひとりの意見交換や充実した会議を重ねてまいりました。総務委員会の役割として、社会情勢が目まぐるしく変化する時代の中であっても、これまで築いてきた先輩方の歴史や伝統を継承することはもちろん、時代に則した新たな考えや知恵を加え、より強固な組織の運営を行っていく必要があります。

まずは、委員会運営を円滑に行うため役割分担情報共有し団結した組織にします。そして、厳粛な総会を行うため定款を理解し、円滑な進行に努めます。さらに、団結した組織をつくるため日頃から信頼関係を築くことで組織力の向上につなげます。また、LOMの活動を知ってもらうため日々の活動を正確に発信し対外の認知につなげます。そして、円滑な会議を行うために過去の資料を参考にすることでスキルアップにつなげます。さらに、会議内容を確認できるようにするため早期発信し議案作成の一助にします。また、必要な情報提供するため主張したい箇所を目立つようにし印象を強くします。そして、読みたくなる情報を提供するため各担当者と連携し思いがこもった対内誌にします。さらに、会議を円滑に行うため事前準備配信を徹底し効率化します。また、貢献したメンバーを称えるため公正な基準のもと褒賞し士気を高めます。そして、出向してもらうため出向の良さを伝え出向者を増やします。さらに、各種大会に参加してもらうため情報共有し参加意識を高めます。また、会員拡大を成功させるためオプザーバーを常に探し拡大に貢献します。

委員会メンバーは、情報共有の重要性和ノウハウを認知し自覚と誇りをもち、今以上に一人ひとりが在るべき姿を発揮し、組織としての団結力を身に着け、メンバー全員の見本となりリードし、受け継がれてきた熱い想いを次世代へつなぐ人材になると確信致します。

1. 事業別内容（方法・手段・評価・反省）

（1）総会（1、3、8月）の開催に関する事項

（方法・手段）

厳粛な総会を行うため定款を理解し、円滑な進行に努めます。

（評価・反省）

まずは自分自身が定款を理解し大きなミスもなく厳粛かつ円滑な進行に努めることが出来ました。また、総会や選考委員会選挙の動員の際に、委員会内で会の目的を理解し、共有した上で、動員の声掛けを行うことができました。しかし、総会の内容の資料を総会の1週間前までに全体に発信する必要がありましたが、そこは定款に反してしまいました。また、出席率を上げるための工夫や動員の際の工夫が少なく、総会の出席率が悪かったのが反省すべき点です。

(2) 選考委員会選挙（6月）の開催に関する事項

(方法・手法)

団結した組織をつくるため日頃から信頼関係を築くことで組織力の向上につなげます。

(評価・反省)

選考委員会選挙においても委員会内で動員の声掛け内容を決め、選考委員会選挙の必要性をお伝えしながら動員しました。しかし、当日どうしても都合が合わない方に対しては期日前投票には来て欲しいということをお伝えしましたが、動員の際は出席だった方が当日急遽仕事の都合や体調不良等で来られなくなったりしたため、期日前投票者が0名でした。動員の際に出席になっていても出席率の悪いメンバーなどは念のため期日前投票を行うなどの工夫を出来なかったことが反省すべき点です。

(3) ホームページ、SNSの運営

(方法・手段)

LOMの活動を知ってもらうため日々の活動を正確に発信し対外の認知につなげます。

(評価・反省)

インスタなどでリアルタイムに発信でき、毎月300名程の方に活動をみていただけたことはよかった点だと感じます。しかし、自分自身が参加していない事業や活動の際は、早期発信するために事前に代わりの方に声掛けする必要があるなと感じました。

(4) 予算会議での誤字・脱字に関する事項

(方法・手段)

円滑な会議を行うために過去の資料を参考にすることでスキルアップにつなげます。

(評価・反省)

過去の議案を参考にし、予算会議において誤字、脱字の精査を行うことができました。また、副理事長に協力していただき、毎月1名副理事長にも予算会議をしていただきましたが、専務グループのスキルアップにもつながり、より円滑な会議にすることができました。しかし、議案の書き方など統一すべき箇所が各議案書き方に違いがあったので、統一するよう総務委員会から発信出来なかったことが反省すべき点です。

(5) 議事録の作成および運営に関する事項

(方法・手段)

会議内容を確認できるようにするため早期発信し議案作成の一助にします。

(評価・反省)

期日までには必ず議事録の作成を行い記録として事務局に保管することができました。しかし、何度か期日ギリギリの配信になってしまい、早期発信することができませんでした。委員会メンバーに協力を依頼し手分けして作成するなど委員会全体でする必要が

あったと感じます。また、早期発信するために文字起こしツールなども活用すれば良かったなと思いました。

(6) 名刺、名札の発行

(方法・手段)

必要な情報提供するため主張したい箇所を目立つようにし印象を強くします。

(評価・反省)

理事長の想いが詰まったロゴや好きな色を名刺、名札に反映させ必要な情報提供や主張したい箇所を目立つように作成できたところがよかったと思います。しかし、名札のサイズが大きかったため入れ物から少しはみ出してしまったことが反省点です。

(7) 対内誌に関する事項

(方法・手段)

読みたくなる情報を提供するため各担当者と連携し想いがこもった対内誌にします。

(評価・反省)

毎月開催告知や委員長コメントなどを載せることにより、内容も豊富で各委員長の想いがこもった対内誌になったことはよかったと感じます。しかし、各種大会や出向に関してもLOMメンバーが理解できるような告知や報告ができれば良かったと思います。

(8) 各種会議の運営に関する事項

(方法・手段)

会議を円滑に行うため事前準備配信を徹底し効率化します。

(評価・反省)

会議を円滑に行うために事前準備・事前配信を徹底することにより、会議の効率化につながったと感じます。しかし、配信に関して差替え資料が多かったことが反省点です。

(9) 褒賞・褒賞エントリーに関する事項

(方法・手段)

貢献したメンバーを称えるため公正な基準のもと褒賞し士気を高めます。

(評価・反省)

今年度LOMに貢献したメンバーを公正な基準のもと称えることが出来ました。また、褒賞の賞品に関しては、各委員長に早めに周知したことで余裕を持って準備することが出来ました。しかし、年始めの1月度総会の際に褒賞の内容について説明するのを忘れてしまったため、褒賞があることを知らないメンバーがいたかもしれません。次年度には、1月度総会の際に告知するようしっかりと引継ぎを行います。

(10) 出向に関する事項

(方法・手段)

出向してもらうため出向の良さを伝え出向者を増やします。

(評価・反省)

私自身出向したことで、多くの出会いがありとても有意義な時間を過ごせましたので、出向のメリットや出向することによって、JCのスケールメリットを感じる事ができました。しかし、委員会メンバーに対してその情報を共有できませんでした。

(11) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

各種大会に参加してもらうため情報共有し参加意識を高めます。

(評価・反省)

私自身出席可能な大会には積極的に参加し、各種大会について学ぶことができた点は、よかったです。しかし、委員会メンバーへ情報共有するも参加意識を高めることまでには至りませんでした。

(12) 会員拡大に関する事項

(方法・手段)

会員拡大を成功させるためオブザーバーを常に見つけ拡大に貢献します。

(評価・反省)

私自身常にオブザーバーを探していましたが、オブザーバーを呼ぶことができませんでした。また、メンバーに対しても委員会の出席率が低くJCの魅力を理解する機会を作ることができず、拡大につなげる動きができませんでした。

(13) 毎月の委員会開催に関する事項

(方法・手段)

委員会運営を円滑に行うため役割分担情報共有し団結した組織にします。

(評価・反省)

副委員長とはこまめに連携し、毎月委員会開催の際には事業の打ち合わせや準備を協力して行ってきました。しかし、副委員長もそれ以外のメンバーも県外に出張したため、対面での委員会開催がままならず、絆を深めることができませんでした。

2. 総評

1年間を通じて、委員会では副委員長、委員会メンバーともに出張のため県外にいましたので、対面でまともに関わることができませんでした。しかし、事業計画に関しては総会、

選考委員会選挙の議案を作成しましたが、副委員長とともにZOOMで構築していきました。また、前年度からの引継ぎで、毎回定足数、委任状の確認でもたつてしまうとの事でしたので、表を作成することと、前もって手伝ってもらう人を1～2名準備した結果、目立つもたつきもなく、スムーズに行うことができました。次年度にも引継いでいきたいと思ひます。また、議事録の作成は早期発信するために文字起こしツールなども活用すれば良かったなと感じましたので次年度に引継いでいければと思ひます。今年度から年間の横断幕を作成しましたが、頼み忘れる心配も軽減させ予算的にも良いと思ひますので、毎年予定者段階で予算組を行い、年間横断幕を準備してください。

3. 担当所見

原専務理事所見

三宮委員長、今年度1年間本当にお疲れ様でした。今年度の総務委員会は、例年に比べて職掌が多く大変な1年だったと思ひますが持ち前の負けず嫌いな気持ちと努力家の熱心な心意気ですべて期日内にこなしていただき、他の委員長へ刺激になったと思ひますし、私も勉強させられました。急なお願いや難しい場面でも、責任感を持って取り組んでくれたおかげで、私自身専務職に従事して取り組む事ができ、今年1年間無事に乗り越えることができました。三宮委員長個人の能力は高いですが、委員会運営や自身の例会の時の動員など、対人に対するの弱さがあると思ひますので次年度は各委員会の上に立つ立場になるので、自分の弱いところにも目をむけて成長していただければ、今後のJC活動、そして社業へつながっていくと感じます。改めて、今年1年ありがとうございました。今後も期待しています。

大庭財務担当常任理事所見

理事経験が2回目なのもありルールやスケジュールに関してはよく対応していたと思ひます。総会の定足数の確認でもエクセルでの二重チェックや総務委員長経験者をお願いし迅速に進行できるように努力していました。選考委員会選挙では現役のメンバーにJCでの経験を講演してもらうなど工夫もよかったと思ひます。SNSに関しては本人が苦手なこともあり配信に手間取りもありましたが、本人自身新しいチャレンジができたと感じます。

予算会議では自分の議案もあり見られない時間が少しあるようでしたが理事2回目なこともあり見落としやすいか所などの指摘が的確にでき委員長の支えとして議案の精査ができたと思ひます。議事録も期日に間に合い式次第に上げ資料の公平性が保たれたと思ひますが式次第の差し替えなどもありレスポンスの速さなど見直す点もありました。名刺なども理事長の想いがよく反映され、どこのLOMにも負けない名刺だと感じました。また、対内誌で委員会の告知やメンバーの感想など取り入れ工夫をこらした対内誌になったと思う反面メンバーやシニアの方などより多くの人に上手く伝えられるかが課題となりました。

会議の設営では誰よりも早く来て準備して上長である私も手伝うことが少ないぐらい率先して行っていました。メンバーが出張などで中々揃わないことが多くありましたが、まめな連絡などをして委員会運営が難しい中でも努力してくれたと思います。三宮委員長は若い中でも多くのメンバーと積極的に交流を深め沢山の団結力を深められたと思います。この経験を活かし、これからの若い世代への架け橋となる人物へと成長していくと確信し次年度も多くの学びをメンバーと共感できる人物となると思います。

4. 次年度への引継ぎ事項

(1) 総会（1、3、8月）の開催に関する事項

委任状、定足数の確認は、もたついてしまうため、途中入室不可にするか人数を把握する役割の方を設け対応してください。また、委任先のメンバーを上長に決めることで、事前にエクセルで表を作成しておけば、数え間違いもなくなると思います。また、入会して浅い方は特に1月、3月、8月の総会の趣旨を理解しづらいため、それぞれの総会の趣旨を動員時や、総会時に発信するようにしてください。動員と委任状の回収に苦勞するため、動員や委任状の郵送の促進は委員会内で分担し、複数回行ってください。8月の総会では次年度役員候補者の方には絶対に出席するよう動員依頼してください。今年度、3月総会の報告書はWEB配信にしましたが、WEB配信でよいかと思います。1月度総会の際に必ず褒賞についての内容を説明してください。総会の日時、場所、総会内容の資料は総会の1週間前までに全体に発信する必要がありますので、定款を確認し発信してください。

(2) 選考委員会選挙（6月）の開催に関する事項

総会同様、動員に苦勞するため複数回動員するなど工夫してください。また、開催直前でもメンバーに声かけを行ってください。

(3) ホームページ、SNSの運営

お酒が移る写真などはなるべく避けてひびきJCのメンバーが活動する風景を多く載せた方がよいと思います。また、他のLOMのホームページやSNSを参考にするのもいいかもしれません。また、閲覧数の推移や比較を昨年と比較できるようにする工夫も検討してください。インスタはメンバーの活動がリアルタイムで伝わるので、LOMの活動時には素早く発信するよう心掛けてください。

(4) 予算会議での誤字・脱字に関する事項

総務、財務担当常任理事、専務理事で予算会議を行っていましたが、次年度は総務委員会の副委員長も協力いただくなど検討したほうがよいと思います。また、予算会議中に修正まで終わらせるようにするために、議案提出期限を委員長に守らせ、事前に修正シートを作成し、予算会議の日は修正に時間を使えるようにするとスムーズに行えます。

(5) 議事録の作成および運営に関する事項

議事録に関しては、委員会メンバーが理事会に参加できる場合は、メンバーに理事会中に入力をしてもらい後日、仕上げるような流れがよいと思います。または、音声認識で入力するソフトを活用することで、タイピングが苦手な方は多少労力を軽減できます。また、議事録を配信するまでのスケジュール管理をしっかりと行い、進捗が遅れない工夫をしてください。

(6) 名刺、名札の発行

毎年、予定者の段階で新旧懇親会の際に仮の名刺、ネームプレートが必要なので、次年度理事が決まり次第、理事メンバー写真や名刺情報など早めに取得してください。また12月上旬には名刺、ネームプレートを印刷しないと次年度に間に合わないので、印刷会社と連携し11月の理事会後、すぐに発注できるよう準備してください。

(7) 対内誌に関する事項

シニアの先輩方やLOMメンバーに活動内容、事業告知等が分かりやすくなるように作成してください。また、専務理事にお願いしシニア役員会議のときなどにシニアの方に閲覧方法を伝えていただくようお願いしてください。また、例会前などに全体LINEでメンバーに発信するなど閲覧できるようにするとともにメンバーの感想や委員長コメントなどを記載し、より想いがこもった対内誌にしてください。

(8) 各種会議の運営に関する事項

各種会議については、会議資料の提出ができていないと成り立たないので資料の提出期限の厳守を徹底するとともに委員長ライン、全体ラインにて発信し、提出ができない委員長については上長と議案を作成する日程を決めさせ、その日に議案を提出してもらうなど強制的な措置をとる必要があります。また、委員長に対して、予定者の段階から副委員長、メンバーを絡めて議案作成をするような働きかけを促進していく必要があります。

(9) 褒賞・褒賞エントリーに関する事項

1月度総会の際に、必ず褒賞についての内容を説明しLOMメンバーに周知してください。また、新入会員には後日、個別で伝えてもよいと思います。褒賞の賞品については、各委員長に前もって周知し、準備しているかの確認を随時行ってください。

(10) 出向に関する事項

まずは委員長が自ら積極的にブロックなどに出向し、自身が出向することで出向の魅力を感じ、メンバーに発信することができれば理想だと感じます。また、自身が出向できないのであれば、ブロック大会や、九州コンファレンスに参加し、ブロックの事業に触れ、参

加しやすい事業にメンバーを誘うことから行うとよいと思います。

(11) 各種大会への参加に関する事項

イベントとして福岡の別のエリアで開催されるブロック大会や、九州コンファレンスは、事業としての目線で参加しても気づきがあり勉強になりますのでまだ各種大会に参加したことがないメンバーもお声がけしてください。また、子どもと一緒に参加できるようなイベントになっているため、家族で気軽に参加できるものとなっているので、積極的に経歴が浅い方にもお声かけしていくとよいと思います。

(12) 会員拡大に関する事項

まずは、自分自身が青年会議所に所属してメリット、デメリットを体感し理解することで言葉で説明できるようになる必要があります。青年会議所のよいところが分かった上で、興味をもってもらうように言葉で伝えることができるようになる必要があります。まずは委員会メンバーで青年会議所の魅力を共有する必要があります。

(13) 毎月の委員会開催に関する事項

委員会や例会に参加しないメンバーを巻き込むことが課題としてありますが、まずは来ないから動員するのを諦めるのではなく、毎月必ず委員会の開催、動員を行うことが大切だと思います。そして、上長や入会時の紹介者を巻き込んで動員をかけてもらい、接点を多くすることで関係性を構築し、委員会に参加しやすい場づくりをしてあげる必要があると感じます。

5. 実施組織

委員長	三宮 颯人君	福岡ブロック協議会ブロック大会運営委員会	委員出向
副委員長	黒川 凌雅君		
委員	新垣 成飛君		
委員	白坂 綾羽君		
委員	田中 菜乃香君		

(委員50音順)

月別事業内容及び決算

(単位：円)

月	事業内容	予算	決算	事業収入	摘要
1月	1月度例会・総会	30,000	22,827	0	通信運搬費、 会場費
	ネームプレート	12,485	12,485		
	横断幕	13,310	13,310		
2月					
3月	3月度通常総会	11,000	8,739	0	通信運搬費、 会場費
4月					
5月					
6月	6月度例会・選考委員会 選挙	15,000	13,915	0	会場費
7月					
8月	8月度例会・臨時総会	30,000	22,827	0	通信運搬費、 会場費
9月					
10月					
11月					
12月	褒章	30,000	10,408		丸筒、品代
合計		¥141,795	¥104,511	¥0	
決算	事業予算 事業収入		決算		残金
	(¥141,795 + ¥0)		- ¥104,511 =		¥37,284 (本会計へ)
備考					

青少年育成委員会

～基本方針～

現代、テクノロジーは目覚ましく発展しており、特にインターネットやゲーム、SNSなどは目を見張る進化を遂げ、便利な世の中になる一方で、他者とのつながり方に変化や影響をもたらしています。非対面によるコミュニケーションツールが主流になる中、今後多様に変化していく時代の中でも、実社会での地域のリーダーとなるべく、ひびきエリアの青少年たちには直接的に人や地域と触れ合い、豊かな心を育んでもらう必要があります。

まずは、委員会メンバーとの親睦を深めるために、密に連絡を取ることや、プライベートでの交流を図ることで、団結した委員会運営を行えます。そして、未来をリードできる人材になってもらうために、子供たちのコミュニケーション能力や問題解決能力を強化することで、人間力やリーダーシップスキルの向上につながります。さらに、地域の少年力士がわんぱく相撲全国大会で試合をするために、LOMの役目を確実に引き継ぐことで、段取りよく登録引率を行えます。また、2024年度もさらなるお力添えをいただくために、地域の皆様に理事長所信を発信し方向性を示すことで、活動方針をご理解いただきます。そして、ご尽力された卒業生を労うために、JC生活を振り返れる内容にすることで思い出に残る卒業例会となります。さらに、メンバーに様々な経験をしてもらうために、自身の経験を伝えることで、出向してもらいます。また、メンバーの成長機会を増やすために、自身が積極的に参加することで、各種大会へ参加してもらいます。そして、会員を増やすために例会などにオブザーバーを連れてくることで、会員拡大の機会を増やします。団結力の高まったメンバーは、同じ方向性をもって活動に参画するようになり、様々な機会により意識変革が加速し、その意識の変革が行動へ移り変わり、青少年育成の向上につながり、地域をリードできる人間が溢れる明るい豊かな社会の実現へと歩みを進めます。

1. 事業別内容（方法・手段・評価・反省）

（1）青少年育成事業の企画運営に関する事項

（方法・手段）

未来をリードできる人材になってもらうために、子供たちのコミュニケーション能力や問題解決能力を強化することで、人間力やリーダーシップスキルの向上につながります。

（評価・反省）

青少年育成事業では、人間力にフォーカスし企画運営を行いました。ひびきエリアの子供たちを集めての宿泊事業の中で、関わりのない別の学校の子供たちや知らない大人と二日間様々な体験を共にすることで、人間力の強化につなげ人付き合いが上手な人間になってもらったことは、未来をリードできる人材育成に寄与できたと確信します。しかし、子供たちの持ってくる物についての説明不足や体調不良者が多く出たこと、氷の準備ができてなかったことなど、事前準備の甘さや暑さ対策の甘さがあった点は反省が残ります。

(2) わんぱく相撲の引率に関する事項

(方法・手段)

地域の少年力士がわんぱく相撲全国大会で試合をするために、LOMの役目を確実に引き継ぐことで、段取りよく登録引率を行えます。

(評価・反省)

わんぱく相撲に関しては、登録等の運営からの依頼に事務局、遠賀川部屋と連携して迅速に対応することができました。しかし、八女JC、糸島JCとの福岡ブロック内での連携がうまくいかない部分があり、引継ぎの甘さがあった点は反省が残ります。当日の全国大会に関しては大きな問題もなくスムーズに引率ができ、地域の少年力士の活躍に寄与できたと確信します。

(3) 新春懇親会式典の部開催に関する事項

(方法・手段)

2024年度もさらなるお力添えをいただくために、地域の皆様に理事長所信を発信し方向性を示すことで、活動方針をご理解いただきます。

(評価・反省)

盛田理事長の所信を地域の皆様に発信すべく、新春懇親会式典を滞りなく開催することができました。地域の皆様に活動方針を理解していただき、お力添えをいただく準備ができたと確信します。しかし、メンバー全員の参加は叶わず、動員については反省が残ります。それでも、理事長所信をムービーとして残し、メンバー全員に聞いてもらうことができたことはよかった点と考えます。

(4) 卒業例会の開催に関する事項

(方法・手段)

ご尽力された卒業生を労うために、JC生活を振り返れる内容にすることで思い出に残る卒業例会となります。

(評価・反省)

ひびきJCのためにご尽力された卒業生にJC生活を振り返っていただく卒業式を執り行い、思い出に残る卒業例会になりました。例会前には卒業生をアテンドしひびきエリアを巡りサプライズで送辞を行うなどの工夫をすることで卒業生に喜んでいただきました。しかし、当日卒業生が1名欠席したため、卒業生全員での卒業式とはならず心残りです。また、出席率も満足いく結果とはならず反省が残ります。それでも、素晴らしい卒業例会にできたことは、メンバーの卒業生への想いの強さのおかげであると感じます。

(5) 出向に関する事項

(方法・手段)

メンバーに様々な経験をしてもらうために、自身の経験を伝えることで、出向してもらいます。

(評価・反省)

委員会メンバーから2名出向していただきLOMとは違った経験の場を与えることができました。しかし自信の経験をうまく伝えることができなかつた点や仕事の都合などでなかなか参加が叶わず実りある出向に出来なかつた点は反省が残ります。私自身は出向により新たな出会いを得ることができ貴重な経験を積むことができました。ですが、なかなか委員会への参加が叶わず後悔が残ります。

(6) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

メンバーの成長機会を増やすために、自身が積極的に参加することで、各種大会へ参加してもらいます。

(評価・反省)

私自身積極的に各種大会に参加をすることができましたが、すべての大会への参加は叶わず反省が残ります。委員会メンバーもなかなか参加が叶わず、動員に関して反省が残ります。

(7) 会員拡大に関する事項

(方法・手段)

会員を増やすために例会などにオブザーバーを連れてくることで、会員拡大の機会を増やします。

(評価・反省)

一年を通してオブザーバーを連れてくることができず反省が残ります。しかし、参加されたオブザーバーとは積極的に関わり入会につなげる努力をできたことはよかった点と考えます。

(8) 毎月の委員会開催に関する事項

(方法・手段)

委員会メンバーとの親睦を深めるために、密に連絡を取ることや、プライベートでの交流を図ることで団結した委員会運営を行えます。

(評価・反省)

委員会メンバーとはプライベートでも多く関わることができました。毎月の委員会開催に関しても飲食店が多い委員会でしたが、時間をつくってもらい参加していただきました。しかし、事業に関してうまく役割を与えることができず巻き込めなかつた点は反省が残ります。

ます。

2. 総評

初めての委員長ということもあり手探りで始まった一年でした。委員会運営もままならないままいきなり新春懇親会式典の部の実行委員長という大役でしたが、委員会メンバーを始め、担当常任理事、担当副理事長、その他多くの手を借りて無事事業を終えることができ、また盛田理事長の所信に華を添えることができました。青少年育成事業では、糟屋JCとの協力事業を行い、他LOMとの交流、そして、関係各所や保護者とのやり取りを通して青少年の育成は元より、自分自身も大きく成長することができたと感じます。わんぱく相撲に関しては議案こそないものの、遠賀川部屋や運営とのやり取り、他LOMとの連携など予定者段階から一年を通して続く事業でしたが、全国大会への引率を終えた際は大きな達成感を得ることができました。そして、ブロック大会運営委員会への出向、京都會議や全国大会への参加を通してJCの魅力も味わうことができ、自身にとって実りある一年になったことは間違いありません。委員会メンバーに対しては私の力不足のせいで、例会、事業、各種大会への参加をうまく促すことができず大いに反省が残りますが、この経験を必ず次年度へ活かし専務理事としてLOMの運営に貢献したいと思います。青少年育成委員長として、また、新春懇親会、青少年育成事業、卒業例会と大きな事業を信頼して任せていただき、成長の機会を与えていただいたことに感謝申し上げます。

3. 担当所見

井上副理事長所見

予定者段階から、周囲の期待が大きくプレッシャーもあったと思います。そんな中、初めての委員長とは思えない行動力で新春懇親会、わんぱく相撲の引率、青少年事業、卒業式とボリュームある事業を次々とこなし、メンバーや委員長たちを引っ張っていく姿には、脱帽するとともに、たくさんの気づきや学びをいただきました。萩原委員長の1年間はまさに今年度理事長のスローガンを体現していると確信いたします。これからは、ひびきJCの中心で組織を率いていく立場となりますが、今年度の経験を糧に大活躍されることを期待しています。1年間ありがとうございました。

早田常任理事所見

萩原委員長は、初めての委員長として、青少年育成事業の計画という非常に大変な役割を担いながらも、持ち前の高い能力を発揮し、見事に議案を仕上げ、事業を大成功に導いたことが非常に評価できます。特に、ひびきエリアの子供たちを集めた宿泊事業の運営においては、子供たちにとって貴重な体験を提供し、未来を担うリーダーの育成に貢献しました。さらに、糟屋JCとの連携を通じて事業を成功させ、今後の糟屋JCとの関係性を築くきっかけとなったことも大きな成果として評価できます。また、新春懇親会も成功させ

地域の皆様とのつながりを強めることができたことや、わんぱく相撲の引率においても迅速かつ的確な対応を行い、大会運営をスムーズに進行させた点は、委員長としての責任感とリーダーシップの現れです。一部の準備不足の甘さが反省点として残りましたが、萩原委員長の努力により事業を成功に導いたことは、今後の活動においても重要な基盤を築いたと感じます。来年度も、この経験を活かし、さらなる発展を期待しています。

4. 次年度への引継ぎ事項

(1) 青少年育成事業の企画運営に関する事項

企画立案からチラシ作成配布、保護者説明会、当日準備等とにかくやることが多い事業ですので、委員会、その他メンバーの協力が必須です。早めに動いて余裕をもって事業構築を行って下さい。子供たちを預かっての事業となるので、体調面や安全対策を徹底して下さい。

(2) わんぱく相撲の引率に関する事項

運営からの登録依頼や他LOMとの連携、遠賀川部屋とのやりとりなどあるので迅速に対応して下さい。京都会議にて現地での登録が必要になるので必ず参加して下さい。予定者段階から次年度の運営は始まるので事務局と連携し対応して下さい。次年度の福岡ブロック主管は糸島JCとなるので主管からの依頼は早め早めに対応して下さい。ひびき、八女、糸島のわんぱく担当グループLINEを作成しており次年度担当を招待する段取りをしていますので、継続してそのグループLINEでのやりとりをお願いします。年間の流れは備忘録を添付していますので参考にして下さい。

(3) 新春懇親会式典の部開催に関する事項

招待状関係に時間をとられるので来賓リストの精査を早急に行ってください。オープニングムービーについては理事長所信に華を添える映像を作成することができましたが、費用対効果をさらに高めるために相見積もりを取るなどして計画して下さい。

(4) 卒業例会の開催に関する事項

当日理事長のプレジデンシャルリース着用を忘れずに準備して下さい。卒業生に届いた花の処理を事前に計画して下さい。マイクの移動、会場レイアウト変更の役割、リハーサルを徹底して下さい。卒業生をアテンドする際は移動にどれくらい時間がかかるか事前に確認し計画して下さい。

(5) 出向に関する事項

まずは自身が出向し経験をメンバーに共有できるようにして下さい。メンバーが出向した際は積極的に参加を促し多くの成長の機会を与えて下さい。

(6) 各種大会への参加に関する事項

自身が積極的に各種大会に参加し委員会メンバーを引き連れて行けるよう動員をして多くの成長の機会を提供して下さい。

(7) 会員拡大に関する事項

オブザーバーを多く参加させ会員拡大のチャンスを広げて下さい。また、委員会メンバーにも拡大の重要性を伝えてオブザーバーを連れてきてもらうよう促して下さい。

(8) 毎月の委員会開催に関する事項

毎月の委員会の日程は副委員長と連携して早めに決めて余裕をもって動員して下さい。ただ集まるだけにならないようやることを明確にして委員会運営を行って下さい。

5. 実施組織

委員長 萩原 優典 福岡ブロック協議会ブロック大会運営委員会 委員出向

副委員長 二村 勇希 福岡ブロック協議会ブロックアカデミー第2委員会
委員出向

日本青年会議所組織グループJC連携推進会議 委員出向

委員 大場 崇士

委員 金城 一聖

委員 佐々木 孝

委員 瀬川 愛梨

委員 花田 康成 福岡ブロック協議会ブロックアカデミー第1委員会

委員出向

委員 藤高 太郎

(委員50音順)

月別事業内容及び決算

(単位：円)

月	事業内容	予算	決算	事業収入	摘要
1月	新春懇親会式典の部	360,000	339,774		会場費、ムービー招待状、横断幕パンフレット
2月					
3月					
4月					
5月					
6月					
7月					
8月	青少年育成事業	250,000 + 外部資金 180,000	404,520		宿泊施設、偏照院、会場費 ポウケンノモリチラシ、横断幕 修了証書、保険
9月					
10月					
11月					
12月	卒業例会	280,000	258,018		会場費、ムービー、集合写真、 花代、郵送費、 手数料
合計		¥1,070,000	¥1,002,312		
決算	事業予算	事業収入	決算	残金	
	(¥1,070,000	+ ¥0)	- ¥1,002,312 =	¥67,688	(本会計へ)
備考					

地域開発委員会

～基本方針～

私たちは1市4町の地域課題と向き合い、明るい豊かな社会の実現に向け活動していますが、地域の課題は時代の流れとともに変化しており、今後もJC運動を展開していかねばなりません。地域の課題を解決し活性化する担い手として私達と地域の人々が一つの目標に向かい協力し、行政や関連団体とこれからも連携を取り安心安全のまちづくり運動を起こし魅力あふれる地域の発見や発信に失敗を恐れず取り組んでいく必要があります。まずは参画意識を向上させるためメンバーと情報を共有し役割を分配することで関係性を強化します。そして地域全体の活性化につなげるために地域の子供たちを中心に考えた事業をすることで地域の未来につなぐ地域運動を行います。また防災事業で共助の心を身に付けてもらうために地域住民とのコミュニケーションをとることでさらなる連携強化につなげます。さらに新春懇親会では関係各位との懇親を深めるためにメンバーがおもてなしすることで今後の関係が強固になります。そして卒業生に感謝を伝えるために各委員会に協力を仰ぎながら準備しJC生活最高な時間にします。地域との連携を深めるために協力依頼があった際積極的に参加することで私達の存在価値の向上に努めます。また出向は他LOMとの交流や知識経験を得てもらうため出向を促しサポートしていくことで参画意識を向上させます。そして各種大会への参加は広い視野を身につけるため大会の内容を伝えることでメンバーの参加意識を高めます。さらに組織力強化のためメンバーと情報を共有し興味のあるかたには例会に参加してもらうことで興味をもってもらい入会を促します。その結果、メンバーの活動意識が増進し、JC I ひびきの活動が地域により多く認知され、浸透しつながりが強固になっていくことで、地域の方と深い連携が生まれ、明るい豊かな社会を守り、育て、つなげていき持続可能な社会へと変革していくと確信しています。

1. 事業別内容（方法・手段・評価・反省）

（1）地域開発事業（9月）の企画運営に関する事項

（方法・手段）

地域全体の活性化につなげるために地域の子供たちを中心に考えた事業をすることで地域の未来につながる地域運動を行います。

（評価・反省）

申し込みフォームの返信機能を活用することができず申し込めたのかがわからない親御さんがいて事務局や私宛に確認の電話が多数有りそのせいか当日も当初の100人の申し込みのほぼが予定の人数をかなり下回りました。しかし評価といたしましては構築段階で参加企業の方たち皆が積極的に子供たちのために考えてくれたおかげもあり企業の方や親御さんも笑顔に溢れ、子供たちみんな楽しんでくれたので、とても達成感を感じることができ事業自体は成功でした。

(2) 例会（5月）防災事業の開催に関する事項

(方法・手段)

防災事業で共助の心を身に付けてもらうために地域住民とのコミュニケーションをとることでさらなる連携強化につなげます。

(評価・反省)

当日は段取りが悪く自分自身が動き回ってしまい、子供たちが取り組む姿を見ることができずにメンバーの割り振りや目的も浸透していなかったのでコミュニケーションもとることができませんでした。地震体験車は皆さん喜んでくれたみたいですが、怖いという認識をして貰うというよりは楽しんでしまっていたのかなとおもったので主旨説明をしっかりとしておくべきだったのかとおもいました。ですが、アンケート結果を見たり来てくれた人たちとも直接話を聞いたのですが防災の知識も付き、普段体験できないこともできたので満足したとっていただいた方が多数いたので事業は成功したと感じました。

(3) 新春懇親会（1月）の開催に関する事項

(方法・手段)

新春懇親会では関係各位との懇親を深めるためにメンバーがおもてなしすることで今後の関係が強固になります。

(評価・反省)

懇親会での福引きはメンバーの司会の進行も良く、盛り上がったので懇親は深められたのではないかと感じましたが地域開発のメンバーの参加が少なかったので予定者の段階から動員を行い委員会を開催するなど懇親を深めていなかったのが反省点として残りました。

(4) 卒業パーティー（12月）の開催に関する事項

(方法・手段)

卒業生に感謝を伝えるために各委員会に協力を仰ぎながら準備しJC生活最高な時間にします。

(評価・反省)

今年の卒業パーティーでは近年なくなっていた余興を組み込み僕自身を含む3人のメンバーでコントを行い、最後には現役メンバー皆で発声をしてもらうことで一体感を感じることもでき、卒業生も喜んでくれて盛大に祝えることができました。反省点としましては余興の完成が直前になり、あまり練習する時間もなくレイアウトも作っていなかったのがマイクの位置などが欲しい位置にないなどの段取り不足な所が反省点として残りました。

(5) 地域の行事に関する事項

(方法・手段)

地域との連携を深めるために協力依頼があった際積極的に参加することで私達の存在価値の向上に努めます。

(評価・反省)

地域の行事には積極的に参加し、会議などにも出席したので交流を深めることができましたが反省点といたしましては参加しているのは委員長の私と上長たちだけでしたので地域開発のメンバーも動員できれば尚よかったとおもいました。

(6) 出向に関する事項

(方法・手段)

出向は他LOMとの交流や知識経験を得てもらうため出向を促しサポートしていくことで参画意識を向上させます。

(評価・反省)

今年度は外部連携委員会に出向させていただきました。最初のほうは会議にも何度か参加し事業にも参加できたので他LOMの方たちとも交流を持つことができていましたが、自身の事業が忙しくなると行く機会が減ってしまい最終的には全然参加しなくなってしまったのが反省点として残りました。

(7) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

各種大会への参加は広い視野を身につけるため大会の内容を伝えることでメンバーの参加意識を高めます。

(評価・反省)

今年度は各種大会には積極的に参加したおかげで普段経験できないような体験ができメンバーとの交流も深めることができたので参加してよかったと自分自身は感じることができましたがそれを地域開発のメンバーに落とし込むことができなかったのが反省点として残りました。

(8) 会員拡大に関する事項

(方法・手段)

組織力強化のためメンバーと情報を共有し興味のあるかたには例会に参加してもらうことで興味をもってもらい入会を促します。

(評価・反省)

身近な人に食事を誘い参加を促すこと何度か行いましたが入会してくれる方は今の

所いませんが最後まで入会してくれる方を探します。

(9) 毎月の委員会開催に関する事項

(方法・手段)

参画意識を向上させるためメンバーと情報を共有し役割を分配することで関係性を強化します。

(評価・反省)

まず評価といたしましては事業前の委員会は週に一回行い、メンバーも参加してくれて役割分担などできていましたが事業の前だけに議案を作るだけで地域のメンバーで食事など交えたなどの楽しい委員会の設営が全然できなかったのが反省点です。

2. 総評

1年間を通じて、改めて委員長の職務の責任と重みを痛感しましたが今では委員長を引き受けて本当によかったと感じています。地域開発委員会では、頻繁な打ち合わせや日中の活動が多く、時には大変でしたが、委員メンバーや担当上長の助け、そして私の従業員や家族の支えのおかげで、1年間を無事に乗り切ることができました。この経験を通して、総務委員長を務めていた時には十分に感じられなかった、周りの方々の大切さを改めて実感しました。様々な団体や企業の方々と打ち合わせや意見交換を重ね、議案を構築する中で、自分自身の成長も強く感じました。また、事業が成功した後には大きな達成感を得ることができ、青年会議所の素晴らしさを改めて認識しました。来年も引き続き地域開発のグループに所属するため、今年1年間の経験から得た教訓や成果をしっかりと次に伝え、ひびきJ.Cが地域になくはない存在となれるよう、そして最後の1年を悔いのないものとするため、全力で邁進していきます。

3. 担当所見

川口副理事長所見

2度目の委員長で大変さを知っているにもかかわらず、予定者の段階で急遽、委員長をお願いした際には、二つ返事で引き受けてくれたことは非常に心強かったです。その時の「やるからには本気でやる」という言葉通り、1年間委員長としての職務を全うしてくださいました。1年目の委員長の際は、委員会メンバーをうまく巻き込めず苦労した1年だったと思います。今年度が動き出した当初も、苦労しているようにも思いましたが、日に日に委員会に参加しているメンバーも増え、普段なかなか見ないメンバーも委員会に参加している姿をよく見ました。事業においても防災事業、地域開発事業と大きな事業をやり遂げてくださいました。なかなかうまく行かず、苦労している場面もありましたが、そこに向かう姿勢は、弱音を吐くことなく、まさに責任感のある理事としての姿でした。委員会内から次年度の委員長を輩出し、そして湯浅委員長自身も1つス

テップアップしひびきJCにとって欠かせない存在であると確信しています。次年度もともにJC生活を楽しみましょう。1年間ありがとうございました。

藤森常任理事所見

急遽委員長の役を受けたにもかかわらず一生懸命取り組む姿は他のメンバーの見本となるものだったとおもいます。委員会運営に関しても、あまり出席していないメンバーに対しても諦めることなく声をかけうまく巻き込むことができていました。地域事業においても難しいとおもいながらも色々な企業をあたってみたりメンバーの協力を仰いだり徐々に形になっていき事業当日も見直す個所はあれど素晴らしい事業だったとおもいます。人をお願いすることが苦手だった湯浅委員長も1年間を通し、人に協力してもらう形で声かけができていましたし来年で卒業ですが、追い込まれないと本気が出ない部分を改善し、より素晴らしい理事としてメンバーを引っ張って行ってほしいとおもいます。1年間お疲れさまでした。

4. 次年度への引継ぎ事項

(1) 地域開発事業(9月)の企画運営に関する事項

地域開発事業では他団体の方や地方公共団体の方たちと必ず打ち合わせなどの機会があります。予定を組んだ際は忘れないように一人で伺うのではなく委員会皆と共有をするなどして忘れないように工夫をしてください。事業でテントや椅子など借りる際は必ず間違えないように印を入れておいてください。

(2) 例会(5月)防災事業の開催に関する事項

今回の事業では参加人数が目標に達しなかったためInstagramやSNSで北九州の行事などをこちらがお金を出して載せてくれるアカウントなどがあり、北九州のお子さんのいる家庭はかなり見ているとおもうので動員に自信がないときはそういった所で集客をしてみてください。

(3) 新春懇親会(1月)の開催に関する事項

乾杯、シニアクラブ紹介、締めの方歳などの登壇者は、シニアクラブ事務局やシニアクラブ会長とよく相談して決めてください。直前に変更になる可能性があります。直前の登壇者本人への案内も確実にを行うようにしてください。

(4) 卒業パーティー(12月)の開催に関する事項

余興をする際は委員長が率先してするのであれば余興に専念するためにもメンバーに全体流れなどを把握してもらっておいてください。それから卒業生が入場する際は

先頭に誘導するメンバーを配置してください。卒業生最後の行事となるので例会とパーティーともに思い出となるように構築し早い段階から計画してください。

(5) 地域の行事に関する事項

地域の行事には曲川の清掃活動や町の運動会などの設営に携わることがあるので参加できない場合などは委員会メンバーに参加を促してなるべく出席して地域の方と交流を深めるようにしてください。

(6) 出向に関する事項

出向をした際は他LOMの方と交流を深めることがすぐにできる場所となっていますのでしっかりと交流を深め、LOMだけでなく社業にも活用してください。

(7) 各種大会への参加に関する事項

各種大会は参加するだけでメンバーとの絆も深まるので自身のメンバーにも動員を行い参加を促してください。

(8) 会員拡大に関する事項

JCに少しでも興味を持っているかたがいれば積極的に食事に誘い入会を促し、普段から拡大する意識をもっておいってください。

(9) 毎月の委員会開催に関する事項

事業が近くなり議案が忙しくなるときだけ委員会をするのではなく普段から委員会メンバーと連絡をとり楽しい委員会の設営もしてください。

5. 実施組織

委員長 湯浅 允斗 福岡ブロック協議会 外部連携委員会出向

副委員長 黒木 五十鈴君 福岡ブロック協議会 外部連携委員会出向

委員 梶栗 裕太君

委員 北嶋 美穂君

委員 中本 茂生君

委員 文岩 栄貴君

委員 村上 賢司君

委員 山下 真利枝君 福岡ブロック協議会 アカデミー第2委員会委員出向

委員 山本 祥平君 日本青年会議所 JC教育推進委員会出向

(委員50音順)

月別事業内容及び決算

(単位：円)

月	事業内容	予算	決算	事業収入	摘要
1月					
2月					
3月					
4月					
5月	5月度公開例会 防災事業	100,000	77,634		通信運搬費 印刷製本費、 謝礼金、保険 料、会場費
6月					
7月					
8月					
9月					
10月	地域開発事業	250,000	219,528		運営費、消 耗品費、印刷 製本費、表彰 費、保険料
11月					
12月	卒業パーティー	100,000	87,965		運営費、通 信運搬費、
合計		¥450,000	¥385,127	¥0	
決算	事業予算 事業収入	決算		残金	
	(¥450,000 + ¥0)	- ¥385,127 =		¥64,873	(本会計へ)
備考					

例会委員会

～基本方針～

近年では、急速にデジタル化が進み便利な社会になり、SNSでのコミュニケーションをとる機会が増えている中、対面でのコミュニケーションスキル強化の余地があり、一人ひとりの資質向上が求められる時代になっています。だからこそ、メンバー同士がより一層コミュニケーションを深めながら切磋琢磨し、人間力が向上するとともに、リーダーとしての自覚とチャレンジ精神をもった積極的なJAYCEEへと成長する必要があります。まずは、委員会メンバーの団結力向上のために、委員会を積極的に行い、メンバー全員でどのような例会を作り上げるのかを議論を重ねることで、委員会のチームワークが向上します。そして、メンバーの資質向上のために、コミュニケーション能力、団結力、人間力、リーダーシップをテーマに例会を設営し、メンバーのスキルアップにつなげます。さらに、先輩方へ感謝の気持ちをもってもらうために、普段接することの少ない先輩方と交流することで、先輩方との絆が深まり、JCIひびき全体の団結力がより一層強化されます。また、メンバーの出向率を上げるために、自らが出向し出向先での経験や学び、楽しさを伝えることで、委員会メンバーの出向意欲を高めます。そして、メンバーに各種大会に参加してもらうために、私が積極的に大会への参加を促し、委員会メンバー同士で、この大会は参加しようと思えることを決めることで、委員会メンバーの仲も深まり、各種大会の参加意欲を高めます。さらに、新入会員を増やすために、会員拡大委員会と密に連携し定期的にオブザーバーリストを共有してもらうことで、メンバーの拡大意欲向上につなげます。リーダーシップスキルとコミュニケーション能力が向上し、リーダーとして成長し変化したメンバーは、互いに団結し、メンバー全体により良い影響がもたらされ、地域の先頭に立つ団体となり、ポジティブな変化をおよぼし、明るい豊かな社会の実現に近づきます。

1. 事業別内容（方法・手段・評価・反省）

(1) 例会（4、7、10、11月）の開催に関する事項

（方法・手段）

メンバーの資質向上のために、コミュニケーション能力、団結力、人間力、リーダーシップをテーマに例会を設営し、メンバーのスキルアップにつなげます。

（評価・反省）

4月度例会では、コミュニケーションスキルを高めるゲームを通じて、目的を達成することができましたが、出席率が非常に低かったことが反省点です。7月度例会はスポーツ例会として行い、出席率が高く、団結力も強まり、目的を達成することができましたが、会場に冷房がなく、参加者の快適さを確保できなかったため、会場選定に関して改善が必要であると感じました。10月度例会では、デジタルリテラシー強化を通じてメンバーの人間力向上の一助となることができましたが、新入会員やオブザーバーには内容が難解でサ

ポートが必要だった点や、会場の空調・視認性の課題が反省点として残りました。11月度例会では、アンケート結果から講演が高い評価を得ており、目的であるリーダーシップ向上に十分達することができました。また、多くのオブザーバーが参加し、そのうち数名が入会を希望するという成果もありました。一方で、メンバーの出席率が低かったことが反省点として挙げられます。

(2) シニア合同例会(9月)に関する事項

(方法・手段)

先輩方へ感謝の気持ちをもってもらうために、普段接することの少ない先輩方と交流することで、先輩方との絆が深まり、JCIひびき全体の団結力がより一層深まります。

(評価・反省)

9月度シニア合同例会では、名刺交換を通じてシニアの方々と現役メンバーとの親睦を深め、普段接点の少ない先輩方との交流を図ることで、ひびきJC全体の団結力が強化されたと感じています。一方で、スライドの名前に不備があったことや、閉会宣言の前に参加者が退出し始めるといったトラブルが発生したことが反省点です。

(3) 出向に関する事項

(方法・手段)

メンバーの出向率を上げるために、自らが出向し出向先での経験や学び、楽しさを伝えることで、委員会メンバーの出向意欲を高めます。

(評価・反省)

アカデミーへの出向を通じて、多くの友人ができ、他業種の方々と交流を深める貴重な経験を積むことができました。このような異業種交流や新たな人脈の構築は、個人の成長だけでなく、組織全体の活性化にも繋がると感じています。一方で、若手メンバーに対してアカデミーへの出向を積極的に後押しできなかったことが反省点です。

(4) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

メンバーに各種大会に参加してもらうために、私が積極的に大会への参加を促し、委員会メンバー同士で、この大会は参加しようと思えることを決めることで、委員会メンバーの仲も深まり、各種大会の参加意欲を高めます。

(評価・反省)

各種大会への参加を促す中で、メンバー同士の絆を深める機会を得ることができました。しかし、自分自身が全ての大会に参加することができず、結果として委員会メンバーの参加意欲を十分に高めることができなかった点が反省点です。

(5) 会員拡大に関する事項

(方法・手段)

新入会員を増やすために、会員拡大委員会と密に連携し定期的にオブザーバーリストを共有してもらうことで、メンバーの拡大意欲向上につなげます。

(評価・反省)

今年度は、会員拡大の必要性を委員会内で共有し、意識の向上に一定の効果が見られました。しかし、具体的な貢献には至らず、会員拡大委員会との連携も不十分で、新入会員の獲得に寄与することができなかった点が反省点です。

(6) 毎月の委員会開催に関する事項

(方法・手段)

委員会メンバーの団結力向上のために、委員会を積極的に行い、メンバー全員でどのような例会を作り上げるのかを議論を重ねることで、委員会のチームワークが向上します。

(評価・反省)

今年度は、委員会で少人数ではありますがメンバー同士で意見を交わし合う機会がありました。これにより、部分的ではありますがメンバー間の理解が深まる場面も見られました。しかし、全体としては委員会が十分に機能しておらず、メンバー全員での議論や意見交換が不足していたため、チームワークや団結力を十分に高めることができなかった点が反省点です。

2. 総評

例会開催に関しては、メンバー間の団結力やコミュニケーションスキルの向上を図るために様々な例会や事業を行い、一部の目的は達成されましたが、課題が残る部分もありました。4月の例会では、コミュニケーションスキル向上を目指して目的を達成しましたが、出席率の低さが反省点となりました。また、7月のスポーツ例会では高い出席率を達成し、団結力が強化された一方で、会場の快適さに欠ける点が改善の余地がありました。シニア合同例会では、名刺交換を通じて交流を深め、組織の結束力を高めることができましたが、運営面での不備が発生しました。10月度例会ではデジタルリテラシー強化を通じて人間力向上に貢献できたものの、新入会員やオブザーバーには内容が難解でサポートが必要だった点や、会場の空調・視認性に課題が残りました。11月度例会では、リーダーシップ向上をテーマに講師をお招きし、参加者の多くがリーダーシップの重要性を深く理解し、アンケート結果でも高い評価を得ました。また、多くのオブザーバーが参加し、入会希望者が現れるという成果もあり、事業目的を十分に達成しました。一方で、メンバーの出席率が低かった点が課題として残りました。

出向に関しては、アカデミーで貴重な経験を積むことができましたが、委員会メンバーや若手メンバーに対する出向の後押しが十分にできなかったことが反省点です。各種大会へ

の参加促進については、絆を深める機会を得られたものの、全ての大会に参加できず、メンバーの参加意欲を高めることが難しかった点も課題として残りました。会員拡大においては、意識の向上は見られたものの、具体的な成果には繋がらず、委員会の連携不足が反省点です。毎月の委員会に関しては、意見交換の場を設けることができたものの、全体的な議論や意見交換が不足していたことが、チームワークや団結力の向上を妨げた要因となりました。

次年度はメンバー全員が積極的に参加できる環境を整え、チーム全体の結束力をさらに高めていくことが重要だと感じました。また、各事業に対しての準備や進行を徹底し、全員が一丸となって目標を達成できるよう努めていきたいと考えています。

3. 担当所見

井上副理事長

初めての委員長として、不安が大きいなか始まった1年でしたが、日を追うごとにたくましい顔つきに変わっていく姿に、成長を感じていました。準備の大切さや人との付き合い方など自分の苦手な部分をたくさん学べた1年になったと思います。その経験は必ず社業や今後のJC生活の糧になります。次年度以降、ひびきJCの中心となりメンバーを牽引していく姿を楽しみにしています。1年間ありがとうございました。

早田常任理事

松井委員長は、初めての委員長として、四苦八苦しながらも一生懸命に取り組んできました。例会委員会としてシニア合同例会を含め5つの議案を抱え、非常に大変だったと思いますが、4月度例会の出席率の低さからの反省から、7月のスポーツ例会ではチームリーダーを選定して動員を工夫した結果、90%近い出席率を達成し、団結力を高めることに成功しました。この成功が、その後の例会や各種大会の出席率増加にもつながったと感じています。また、松井委員長は、当初はパソコンスキルが低く、業務に苦勞していましたが、私が教えながら一緒に取り組むことで、徐々にスキルを向上させました。さらに、文章力や会議での答弁スキルについても、最初は不安がありましたが、回を重ねるごとに成長し、見違えるほどスムーズに対応できるようになり、他委員長の意識改革につながる重要な基盤を築いた感じがします。来年度も、この経験を活かして、より一層の飛躍を遂げられることを確信しています。

4. 次年度への引継ぎ事項

(1) 例会(4、7、10、11月)の開催に関する事項

例会の目的を達成するために、どのような手法を取り入れるべきかを具体的に話し合ってください。委員会メンバー全員で、例会ごとの目標や課題を明確にし、その実現に向けた具体的な方法を検討してください。

(2) シニア合同例会(9月)に関する事項

ただ単に懇親会で食事をするだけでなく、シニアの先輩方と現役メンバーが交流を深められる手法を取り入れてください。準備や進行に不備がないように、次年度は事前準備をより徹底し、スライドや進行の管理を確実にいき、スムーズな進行を心がけてください。

(3) 出向に関する事項

自ら積極的に出向し、その経験をメンバーに伝えてください。出向先で得た経験や学び、楽しさを共有し、他のメンバーにも出向の魅力伝えてください。メンバーが出向に対して積極的に参加したくなるような環境づくりを心がけてください。

(4) 各種大会への参加に関する事項

委員会メンバーが各種大会に積極的に参加できるよう、毎月の委員会で各種大会の議題を随時取り上げてください。メンバー全員が大会への参加意識を高められるよう、情報共有や参加に向けた具体的な計画を進めてください。

(5) 会員拡大に関する事項

会員拡大に向けて、委員会でオブザーバーを積極的に招いてください。その後、例会へと繋げることで、オブザーバーが参加しやすい環境を整えてください。毎月の委員会でも、オブザーバーを意識し、彼らが参加しやすい雰囲気を作り出すようにしてください。

(6) 毎月の委員会開催に関する事項

事業成功のために、委員会を積極的に開催し、委員会メンバーの意見を取り入れてください。メンバー全員が意見を出し合える場を作り、チームとしての団結力を高めることが重要です。また、今年度の反省点として、担当例会に委員会メンバー全員が揃っていませんでしたので、次年度はメンバー全員が例会に参加できるよう、スケジュールの調整や事前の確認をしっかりと行ってください。

5. 実施組織

委員長 松井 康 福岡ブロック協議会アカデミー出向

副委員長 川島 幸平

委員 鐘ヶ江 将 公益社団法人日本青年会議所九州地区

福岡ブロック協議会総務グループ 総務広報委員会

委員として出向

委員 佐伯 慎一

委員 寺崎 竜二 公益社団法人日本青年会議所

組織グループ J C連携推進会議 委員として出向

公益社団法人日本青年会議所

九州地区福岡ブロック協議会 財政局 委員として出向

(委員50音順)

月別事業内容及び決算

(単位：円)

月	事業内容	予算	決算	事業収入	摘要
1月					
2月					
3月					
4月	4月度例会	20,000	3,150	0	会場費
5月					
6月					
7月	7月度例会	40,000	8,343	0	会場費
8月					
9月	9月度シニア合同例会	70,000	65,110	0	横断幕、会場費
10月	10月度例会	30,000	18,397	0	会場費、郵送費、 講師謝礼金
11月	11月度例会	30,000	12,070	0	講師謝礼金、会場 費
12月					
合計		¥190,000	¥107,070	¥0	
決算	事業予算 事業収入 決算 残金 (¥190,000 + ¥0) - ¥107,070 = ¥82,930 (本会計へ)				
備考					

会員 J C I ひびきは向こう二年間で現会員数の約半数にもあたるメンバーが卒業を控えてお

り、会員拡大の成功なくしては、我々の活動や運動を発信する力が半減する可能性があります。J C I ひびきの先輩方が築きあげてきた半世紀以上の伝統、歴史を引き継ぐ使命が我々にはあり、これからもひびきエリアの発展に努める強い組織であり続けるには、将来の J C I ひびきの礎となる新たな青年有志を一人でも多くの仲間を迎える必要があります。

まずは、委員会が一丸となり拡大目標を達成するために、毎月の委員会以外でも密に連携を図り、委員会内の方向性を共有します。そして、L O M 全体で拡大を行うために、目標を設定し進捗を発信することで、メンバーが拡大の意識を持ち計画的に拡大活動を行います。さらに、新入会員が積極的に J C 活動を行うために、J C 活動の理解を深める内容のセミナーすることで、新入会員時の不安を除きます。また、会員拡大に必要なことを理解し活動するために、講師に講演いただくことで青年会議所の魅力を理解し発信します。そして、第一エリアの絆を深めるために、各 L O M と密に連携し合同例会成功させることで、信頼関係を構築します。さらに、会員拡大を円滑に行うために年初にパンフレットを作成することで、J C I ひびきの活動を紹介しやすくします。また、J C の魅力を感じてもらうために出向することで新たな出会いの中で人とのつながりの大切さを学びます。そして、会員の成長と会員の関係を強化するために、各種大会で普段とは違う場所で一同に会する機会を提供することで、強固な連携感が生まれ新しい同志を募る意識が芽生えます。

会員拡大委員会のメンバーは J C 活動や出向の経験を経て、新たな出会いの中で人とのつながりの大切さを学び強い情熱で先輩方が築き上げた半世紀以上の伝統、歴史をまもり現代の進化する社会にコミットし明るい豊かな社会の実現に成り得ると確信しております。

1. 事業別内容（方法・手段・評価・反省）

(1) 新入会員の拡大と入会に関する事項

(方法・手段)

L O M 全体で拡大を行うために、目標を設定し進捗を発信することで、メンバーが拡大の意識を持ち計画的に拡大活動を行います。

(評価・反省)

ロードマップを作成し、年間の目標を定め拡大全体会議を行い、メンバーにも協力を依頼しオブザーバー候補を多くのメンバーから出していただいたが、そこからアプローチを行うまでに至らず、拡大会議も単発で終わったため L O M 全体に拡大の意識をもたせるまでには至りませんでした。

(2) 新入会員セミナーに関する事項

(方法・手段)

新入会員が積極的にJC活動を行うために、JC活動の理解を深める内容のセミナーすることで、新入会員時の不安を除きます。

(評価・反省)

12月11日に新入会員セミナーを開催し、今年度入会した8名中5名が参加し、分からないなりに少し青年会議所について理解できたという声がありました。しかし、本来ならば入会して早い段階で開催されるべきものであるためセミナーの効果としては最低限のものだったと考えます。

(3) 会員拡大例会(2月)の開催に関する事項

(方法・手段)

会員拡大に必要なことを理解し活動するために、講師に講演いただくことで青年会議所の魅力を理解し発信します。

(評価・反省)

拡大例会に関してはオブザーバーを多く呼ぶことができ、また講師の方にも素晴らしい講演をいただくことで拡大に向けての良い事業にはなったが、そこからアフターフォローができておらず入会に結びつけることができませんでした。

(4) 第一エリア合同例会(三月)に関する事項

(方法・手段)

第一エリアの絆を深めるために、各LOMと密に連携し合同例会成功させることで、信頼関係を構築します。

(評価・反省)

ひびきの地で第一エリア合同例会を行い、懇親会でも席を各LOM混合にすることでコミュニケーションを図ることができたと思う。しかし、進行面ではブロックアワーを懇親会時に行うことで、多くの方がブロックアワーに集中せずに会話と食事をしている状況となり、設えを次回以降考える必要があると感じました。

(5) 拡大パンフレットに関する事項

(方法・手段)

会員拡大を円滑に行うために年初にパンフレットを作成することで、JCIひびきの活動を紹介しやすくします。

(評価・反省)

年初に拡大パンフを作成し、2月の拡大例会にて配布したものの誤字脱字が発覚し、そこからパンフレットを使用することはありませんでした。改めて誤字脱字を修正し配布するということができたが、そのまま新しく印刷せずに終わりました。

(6) 出向に関する事項

(方法・手段)

J Cの魅力を感じてもらうために出向することで新たな出会いの中で人とのつながりの大切さを学びます。

(評価・反省)

私自身が出向することができず、メンバーにも出向することの必要性やメリットを伝えることができませんでした。

(7)各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

会員の成長と会員の関係を強化するために、各種大会で普段とは違う場所で一同に会する機会を提供することで、強固な連携感が生まれ新しい同志を募る意識が芽生えます。

(評価・反省)

各種大会に参加する時間が作れず、今年度参加できた大会は全国大会だけとなりました。その結果委員会メンバーも出席することがなく、やはり委員長自身が出席し動員することが必要であると感じました。

(8)毎月の委員会開催に関する事項

(方法・手段)

委員会が一丸となり拡大目標を達成するために、毎月の委員会以外でも密に連携を図り、委員会内の方向性を共有します。

(評価・反省)

メンバーが初期の段階で連絡が取れず、活動するメンバーが副委員長のみとなってしまいました。しかし、副委員長と二人だけになり、こまめに連絡はとり情報共有ができたことや、それにより副委員長が議案作成や拡大のフォローを積極的に行ってくれました。

2. 総評

全体的に中途半端な活動内容となってしまう、ご迷惑をおかけすることが多々ありました。当初、社業と両立できると考えておりましたが、トラブル続きでなかなかJ Cに打ち込むことができず、拡大目標もクリアすることができず反省すべき点が多くある1年でした。委員長という役職の大変さ甘く見ていたことを実感していますが、この1年でいかに会社の自走可をしなければいけないかを学び、今後の自分がすべきことが見えてきたと思います。

3. 担当所見

川口副理事長

初めての委員長ではありましたが、予定者の段階からモチベーションは高く非常に頼もし

い存在でした。２月度例会では２４名ものオブザーバーに参加してもらいましたが、私が担当副理事長としてコミットできず、入会につなげることができなかったことは、山本委員長に申し訳なかったと感じています。ＪＣにも社業にも追われる中で、ＪＣに十分に力を入れることのできない時期も多くありましたが、心折れることなく、委員長を務めたこの１年の経験は、今後の山本委員長の人生の糧になると確信しています。また、理事経験はありますが、副委員長が次年度委員長として理事を引き受けたことは、山本委員長との１年があったからこそだと感じております。１年間ありがとうございました。

藤森常任理事

山本委員長の持ち前の明るさと人脈で拡大例では多くのオブザーバーを動員し、今までにないほどの盛り上がりを見せた２月度例会は大成功だったと思います。しかし、その後のフォロー体制を上手く作れず、入会に繋げることができなかった点は私のサポート不足だと反省しております。途中から社業に追われている中でなかなかＪＣに取り組めず日々葛藤していたかと思います。社員を多く抱える中で、仕事に対しての責任感が強いことからＪＣできない状況の中最後まで委員長をやめることなくできたことは少しでも山本委員長の成長に繋がったと思います。何事もタイミングがありますので、今自分がすべきことをクリアして、またタイミングをみて様々な役職に挑戦して欲しいですし、山本委員長の拡大力がその時発揮できると思います。１年間お疲れさまでした。

４．次年度への引継ぎ事項

(１)新入会員の拡大と入会に関する事項

計画時点でしっかり組み立てを行い、計画の進捗確認と振り返りを行わなければ、なんとなく１年間が過ぎてしまうため計画の重要性を感じます。特にＬＯＭメンバーを巻き込むという点においては、定期的に拡大会議を行うこと、拡大委員会以外のメンバーにも役割を設けることが必要であると感じました。

(２)新入会員セミナーに関する事項

拡大の計画同様で新入会員セミナーの日程もあらかじめ決めておく必要があると感じます。理事長含む理事、監事、新入会委員のスケジュールを合わせるのは非常に難しいため、年初に予定しておくほうが良いと思いました。事前に講師も誰が行うか決め、講演内容についても各種大会の写真など入れて視覚で分かりやすく楽しそうな資料があれば興味付けもできるかと思いました。

(３)会員拡大例会(２月)の開催に関する事項

動員については拡大委員会が率先してオブザーバーを集めることはもちろんですが、ＬＯＭのみんなに協力してもらい一人でも多くの方を呼べるように働きかけてください。例会

後のアフターフォローについては事前にいつ誰が誰にどんな電話をするか役割を決め、計画通りにできているか確認していく必要があると思います。各LOMとの打ちは早い段階で行い、引

(4) 第一エリア合同例会（三月）に関する事項

各LOMとの打ちは早い段階で行い、引継ぎに記載している細かい部分を事前に打ち合わせしておく必要があります。ブロックアワーについてはブロックの方々が大変な打ち合わせしておく必要があります。ブロックアワーについてはブロックの方々が大変な時間を要し練習されたものであるためしっかりと聞く体制づくりをしてあげる必要があります。

(5) 拡大パンフレットに関する事項

拡大パンフレットに関しては単年度向けに作成するか、数年使えるものにするか検討する必要があります。数年使えるものにすれば、余ったとしても来年も使用でき、予算を無駄にしない。しかし、タイムリーなひびきJCの情報を伝えるということにおいては単年度向けに作成するという方向性も良いと思うので検討するべきだと思います。またパンフレットに関しても全体会議にてオブザーバーの候補を挙げてもらい、人数分パンフレットを振り分けると良いと思います。またパンフレットの活用方法や話法なども拡大会議で行うとメンバーの声掛けの質も向上すると思います。

(6) 出向に関する事項

委員長が出向しなければなかなかメンバーへの促進ができないと思うので、積極的に委員長が出向する必要があると感じます。また、自身ができないのであれば今まで出向してきたメンバーに話を聞いたり、そのメンバーに出向していない委員会メンバーへ話をしてもらう機会を作ればよいと思います。特に最初の出向の入口はアカデミーになるので新入会員にはそういった機会を設ける必要があると思います。

(7) 各種大会への参加に関する事項

各種大会についても出向と同様だが、各種大会にて全国の青年会議所の方と関わる貴重な場であり、近年は日本青年会議所に出向したメンバーもいて、日本青年会議所の方と接点をもてる良い機会です。今後例会等でこういった人脈を活かして講演をしてもらったりできるので、積極的に参加して欲しいと思います。

(8) 毎月の委員会開催に関する事項

委員会に関して、今年は2人で行ってきたが、メンバーへの情報提供と関係性を構築する上で、メンバーにも役割を設けて関わり合いをもち、巻き込みを図っていく必要があります。

す。結果、議案の作成や拡大活動での力になりそれが委員会の力になると感じます。

5. 実施組織

委員長	山本 凌士	福岡ブロック協議会	LOM支援委員会	出向
副委員長	田染 智絵	福岡ブロック協議会	LOM支援委員会	出向
委員	佐藤 竜矢	日本青年会議所組織グループ	JC教育推進委員会	
		福岡ブロック協議会	アカデミー第1委員会	出向

(委員50音順)

